

進捗報告

2015.11.19 事務局 河中

関係各位にホームページ開発の進捗状況を報告します

このページはパソコンの word で作成し、pdf 形式で出力してサーバに up しています。

下記 1 の方針に沿う情報・ドキュメントを募集しています。

1 方針

- ① 古くから伝承されている錦帯橋文化紹介。徴古館にこだわらず全国の美術館も調査
- ② 河床下の 3 層の石畳や橋脚の石垣は創建時のままと主張する
- ③ 錦帯橋の story を説明する。例えば、戦国から平和の時代に舵を切った象徴。

2 今やっていること（目先の課題）

- ① スマホの動作検証

- ② 岩国図書館の本を scan。

著作権法では文学作品は著者死後 50 年、団体の著作物、一般図書は公表後 50 年で、かつ公的機関出版物は広報が目的の場合は無制限である。

現在、参考文献を 3 冊、講演会を 1 冊読み込んだ。

1950年	横山 保勝会	「錦帯橋の由来と其の構造」	10ページ
1954年	岩国建設局次長 品川資	「名勝錦帯橋再建記」	400ページ
1972年	岩国徴古館	「錦帯橋に関する資料」	74ページ
2008年	岩国市役所	「錦帯橋国際シンポジウム」	78ページ

3 出来れば 1 ヶ月以内に実装

- ① 広報活動のページを埋める（図書 scan で遅れています）
- ② のぼり旗のページを埋める（図書 scan で遅れています）
- ③ 関連資料に図書を scan して電子図書
- ④ 陳情書の電子ファイル取得(原田さんに依頼予定)

4 長期的課題

- ① 徴古館で、錦帯橋関係の浮世絵・掛け軸等を調査
- ② 過去の講演会資料・錦帯橋関連図書の収集
- ③ 河床の 3 層の石畳の図面を入手
- ④ TOP ページの真ん中にある 4 つのボタンで、スマホのように小さな画像でメニューを選ぶ流行の操作方法を実装する。
ここに本命である①②③等を埋める
- ⑤ 市内の写真館・写真家集団「野良犬の会」の写真を掲載する
- ⑥ 岩国図書館で錦帯橋関連図書を調べる
- ⑦ 白崎八幡の下、称光寺の錦帯橋関連図書を調べる

5 確定事項

方針決定で変更禁止の機能

- ① 端末の画面サイズに合わせて css を変更する
- ② 最初ホームページを開いたとき、ジワット文字・写真で主張を訴える。
- ③ 外人を意識して、日本的風合いを出す。
- ④ 左のメニューに既存ホームページの内容を引越す
- ⑤ 動画ファイルは mpg4 で youtube サーバに up する方式にする
- ⑥ ゆらぐ旗は無料の <http://makesweet.com/my/flag> を使う。スマホ対策
・ flash が動かないのでアニメ gif に変える

6 story 案

岩国観光ホテルで開催された「2008年錦帯橋国際シンポジウム」で、パネラーのミシュラン・コット氏： 仏国、nantes 大学教授、イコムス評議委員が紹介したスペインのビスカヤ橋が参考になる。外人にはゼロベースで全て説明するのが大事だと思える。写真等を追加して主メニューのひとつにしたい。

(以下、草稿中)

1 背景

応仁の乱（1467年）以降、中央政権が事実上瓦解して群雄割拠の内乱状態が100年以上続いた。吉川家は当時中国地方の豪族に過ぎなかったが、毛利元就の次男、元春を天文16年(1547年)養子に迎え以降、吉川家は幾多の戦に参加している。

尼子氏、大内氏、織田信長・秀吉、大友宗麟、南条元統との戦など公式な記録に残っている戦だけで約220ある。朝鮮出兵にも参陣し多くの戦国大名と昵懇になった。

2 減封

1600年の関が原の戦いで本家の毛利家が西軍の総大将になったにも拘らず

吉川広家は西軍に味方せず関が原の陣営で東軍徳川家康と内通して静観を守った。

関が原の戦後、本家毛利家は取り潰しの沙汰があったが吉川家の領地を毛利家に謙譲しあらためて毛利家から周防岩国の所領を授かった。

旧尼子の城だった出雲月山富田城を領有していたときは14万石あった収入が周防岩国では3万石に減封になった。

家臣1500名はそのまま、岩国に来たので収入は1/5以下になった。しかも周防岩国は減ぼした旧大内領の一部だったので、当初は山間部の旧大内領に重税をかけた。

岩国藩初代藩主、吉川広家は、三方向を川に囲まれ攻め落すのに苦勞した月山富田城と地形が似ている横山を本拠地としている。

3 都市計画

吉川広家は壮大な都市計画をたてた。つまり、大規模干拓(2000ha)、製紙業、特産品（レンコン）の育成に着手した

400年経った今でも、平地の主要箇所は当時、海面を埋め立てた土地である。また、岩国の製紙業、レンコンは今も盛んである。

これらの都市計画により当初3万石だった収入が、名目6万石、実質12万石になった。

幕府には6万石が公認され外様大名として参勤交代を行ったが、毛利家の反対で従5位に任命されず陪臣扱いだった。

4 自然が過酷な錦川

吉川広家は100石以上の武家が住む横山と、錦川を挟んで町人、下級武士が暮らす錦見を橋で結ぶ計画を立てていた。しかし錦川は、台風シーズンになると山間部の急流が集まり樹をなぎ倒し石を転がして大洪水になる。

当時一般的だった土橋・木橋は、錦川では川幅200mが一気に水位8m～10mになり、流木と石がゴロゴロ流れるので水中の柱は流された。

岩国藩2代目藩主、吉川広正公は幾度となく木橋を構築したが、尽く洪水で流失した。

- (1) 防衛上、3方向を川に囲まれる地形は捨てがたい
- (2) 洪水で流木や石がゴロゴロ流れるので川の中に杭は打ち込めない
- (3) 当時の木造建築ではスパンが短い、200mに架橋する、
- (4) 横山地区は山裾で土地が狭いので、市街地や多くの武家や町人が住む錦見地区との間に橋がいる
- (5) 開墾・市街地開発の一環で橋が必要

この難題の解決策を考えたのが3代目藩主、吉川広嘉公である。

5 錦帯橋の構想

中国（明）からの亡命僧、独立の助言や長野大月の猿橋を参考にしたと言われているが、日本で初めて台風でも流されず276年間、利用された錦帯橋を構築した。

約200mの川幅に4基の橋脚を建て、その間約35mのスパンにアーチ構造の木橋を架けた。当時、城や神社仏閣など巨大建物は多くあったが35mの空中回廊は、突然出てきたもので当時の人はビックリしたと想像できる。

ただ、翌年洪水で橋脚が崩れたので、最先端の築城技術を持つ近江の穴太衆に家臣を弟子入りさせ奥義を習得させた。錦帯橋の上流下流の河床60間に無数の丸太を打ち込み、3層の石積みを行って河床を安定させて以降、276年間洪水でも流失しなかった。

日本でこれだけ長く使われた橋は他に無く、江戸時代の参勤交代では九州の大名が錦帯橋を渡ったと記録に残っている。

大名は他国の領地内主要箇所を通過するときは、槍を下げるのが礼儀だが岩国藩が6万石の微禄と侮り槍を上げたまま通過するので、錦帯橋入り口付近に枝振りの良い松を植えて、槍を下げさせ溜飲を下げたと言われている。

6 錦帯橋のかげり

- (1) 昭和25年、国宝の話が国会で出たがキジヤ台風で橋脚が崩落して流れ、国宝の話が棚上げになった
- (2) 車社会到来
岩国でも車社会になり徒歩で錦帯橋を渡る人が少なくなった
上流に錦上橋、下流に臥竜橋があり、地元の人はその車を車で渡り、錦帯橋は観光名

所になった

(3) 戦後の高度成長

急激な高度成長で若者の大部分は東京・大阪で就職して地元で人が少なくなった

また、大店舗法が出来るなどで、旧市街地区が寂れてきた。

しかし、経済成長ばかりでなく、最近では心の豊かさがみなおされており、錦帯橋を中心とした旧岩国藩の文化政策が見直されている